



ロールス・ロイス前デザイナーが独立 “陸海空”を狙うデザイン会社を旗揚げ

ロールス・ロイス・ファントム、コンセプトカーの100EX、そしてこれをベースとする新型コンバーティブルのエクステリア・デザインを担当したマレック・ジョルジェビックが独立し、カリフォルニアに自らのオフィスを設立した。自動車だけでなく、ヨットおよび航空機、そしてその周辺のアクセサリーのデザインやブランド開発を手掛ける予定という。

現在36歳のジョルジェビックは旧ユーゴスラビア出身で、アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン卒。BMWに8年勤務したあと、ファントムのデザイン・コンペで彼のデザインが選ばれロールス・ロイスに移籍した。「1930年代にロールスは陸海空のそれぞれでスピード・レコードを持っていた。3つのカルチャーに携わりたいと思ったのは彼らにインスパイアされたから」とジョルジェビックは語る。今後どんなクルマを手がけるか、との問いには「ディーラーから大メーカーまでさまざまな規模のクライアントの要求に応えたい」と明言はしなかったが、富裕層の多い土地柄を活かしさまざまなビジネスチャンスを探る見込みだ。なお同じカリフォルニアではアストン・マーティンDB9やBMW Z07(後のZ8)をデザインし、BMW時代にはジョルジェビックの同僚だったヘンリック・フィスカがフィスカ・コーチビルド社を設立、高級スポーツカーのカスタマイズを手掛けている。(text & photo=田中誠司)